



ふるさとの自然があぶない 外来種に侵略される生きものたち

いま、日本の生きものたちは、かつてない危機に見舞われ、多くの種類が存亡の危機に立たされています。生息環境の悪化や乱獲に加えて、人間によって持ち込まれた一部の外来種が、さらに追い打ちをかけています。

このところ頻発する魚や鳥獣の感染症が、容易に国境を越え、人間の健康までもが脅かされようとしています。国内にあふれる外国産の動植物...、原産地で、そして日本で、多くの野生動植物が、絶滅の道を歩んでいます。

■ 期日 2004年3月14日(日)

■ 会場 新潟青陵大学 4号館 4111講義室(1階) 新潟市水道町1丁目5939-27

■ 日程

9:30~ 受付 10:00~ 開会

10:05~11:00 活動報告と問題提起

- ・バス類駆除活動の経緯 五味川 秋男(ブラックバス問題新潟委員会)
- ・ブラックバスによるトンボ類の被害 古澤 博之**・金泉 杏奈**・柴野 友里加**
(*柏崎市立松浜中学校、**柏崎市立松浜中学校卒業生)
- ・希少淡水魚イバラトミヨに忍びよる外来生物たち 樋口 正仁(五泉トゲソを守る会)
- ・野生獣の感染症について 風間 辰夫(日本鳥類保護連盟専門委員)

11:00~12:30 基調講演 中井 克樹 (滋賀県立琵琶湖博物館主任学芸員)

外来種問題の考えかた

~いま、生き物とのつきあいを見直すとき~

12:30~13:20 昼食休憩 ポスターセッション・展示(玄関ホール)

13:20~15:10 パネルディスカッション

外来種と向き合う現場からの報告

- ・中井 克樹 (滋賀県立琵琶湖博物館)
- ・林 克久 (越佐昆虫同好会)
- ・橋本 琢磨 (自然環境研究センター)
- ・渡辺 央 (日本野鳥の会新潟県支部)
- ・白崎 仁 (新潟県植物保護協会・新潟薬科大学)



エチゴモグラ
：新潟県RDB絶滅危惧Ⅱ類

15:20~16:20 会場トーク 今後の活動の方向性を探る

16:30 閉会 17:30~ 交流会

第2回生物多様性シンポジウム なぜクマ・サルが人里に？ 野生動物との共存の道をさぐる



・・・クマ・サル・イノシシなど、野生動物におきている「異変」について
検討し、野生動物の保護管理のあり方を考える

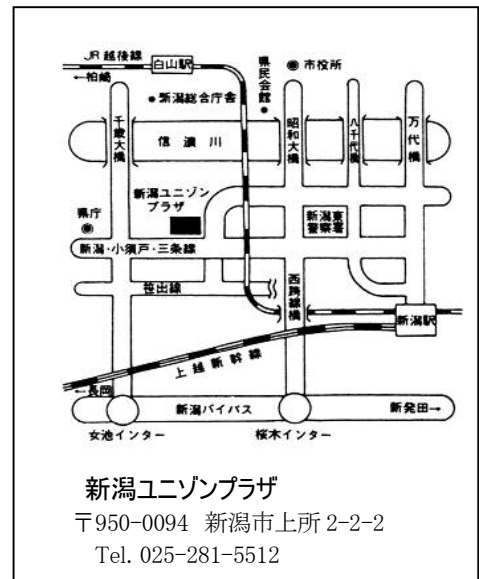


主催/生物多様性保全ネットワーク新潟
新潟県ツキノワグマ研究会

日時/2005年3月19日(土) 10:00~16:30

会場/新潟ユニゾンプラザ 大会議室

参加費/一般 1,000円, 学生 500円(中学生以上)



◆午前の部 10:00~12:30 (受付開始9:30~)

開会の挨拶 (ネットワーク代表)

現状と問題提起 (ネットワーク幹事)

基調講演

生物多様性のシンボルとしての大型哺乳類

三浦慎悟氏 (新潟大学農学部附属)

フィールド科学教育研究センター教授)

※昼食休憩・ポスターセッション

・・・おにぎり・お茶販売(600円):受付で注文をとります

◆午後の部 13:20~16:30

パネルディスカッション

コーディネーター

・関島恒夫氏 (新潟大学大学院助教授)

パネラー

・三浦慎悟氏 (基調講演講師)

・箕口秀夫氏 (新潟大学農学部助教授)

・佐藤善幸氏 (ツキノワグマと棲処の森を守る会)

・山谷裕子氏 (新潟県ツキノワグマ研究会事務局)

・片桐明男氏 (新潟県環境企画課鳥獣保護係長)

質疑応答・会場トーク (進行:ネットワーク事務局)

閉会の挨拶 (新潟県ツキノワグマ研究会代表)

◆交流会/会場「新潟駅前 割烹大助」

参加費:4,000円 参加は当日会場で受けつけ。
シンポジウム会場からバスが出ます

◆後援/新潟県, 新潟県教育委員会, 新潟市, 新潟市教育委員会,

(財)日本自然保護協会, 日本ツキノワグマ研究所, 新潟県自然・環境保全連絡協議会, にいがた市民環境会議, 新潟日报社, 朝日新聞新潟総局, 毎日新聞新潟支局, 読売新聞新潟支局, 産経新聞新潟支局, NHK新潟放送局, BSN新潟放送, NST新潟総合テレビ, TeNYテレビ新潟, NT21新潟テレビ21, エフエムラジオ新潟, FM PORT 79.0, FM KENTO, ラジオチャット・エフエム新津, ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ, 燕三条エフエム放送, エフエムしばた, エフエム角田山コミュニティ放送

◆お問い合わせ先

生物多様性保全ネットワーク新潟
事務局 井上 信夫

〒950-0892 新潟市寺山1丁目5-48

Fax.025-270-2011

Mail.naturewk@basil.ocn.ne.jp

URL. <http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/>

第3回生物多様性シンポジウム

とい戻せるか いのち 生命あふれる身近な自然！

…… 里山・田畑・町や村



Illustrated by えんどうゆうこ

主催 生物多様性保全ネットワーク新潟

日時 2006年3月18日(土)
10:00~16:40

会場 新潟ユニゾンプラザ 大会議室

参加費 一般1,000円 学生500円
(報告集代金、送料を含む)

◆午前の部 10:00~12:00

9:30 受付開始 ・お昼の弁当予約(600円)・交流会参加受付

10:00 開会

10:15~12:00 基調講演

生きものと共生する里山づくりを自ざして … トキ野生復帰の現場から

【講師】 関島 恒夫 氏 (新潟大学大学院自然科学研究科)
関谷 國男 氏 (新潟大学理学部自然環境科学科)

12:00~13:00 昼食休憩 (ポスターセッション)

◆午後の部 13:00~16:40

13:00~ パネルディスカッション

身近な自然をとい戻すために

コーディネーター 五十嵐 實 氏 (日本自然環境専門学校)

越山 直子 氏 (亀田郷土地改良区)

関島 恒夫 氏 (新潟大学大学院自然科学研究科)

関谷 國男 氏 (新潟大学理学部自然環境科学科)

中村 忠士 氏 (自然観察指導員・里山ボランティア)

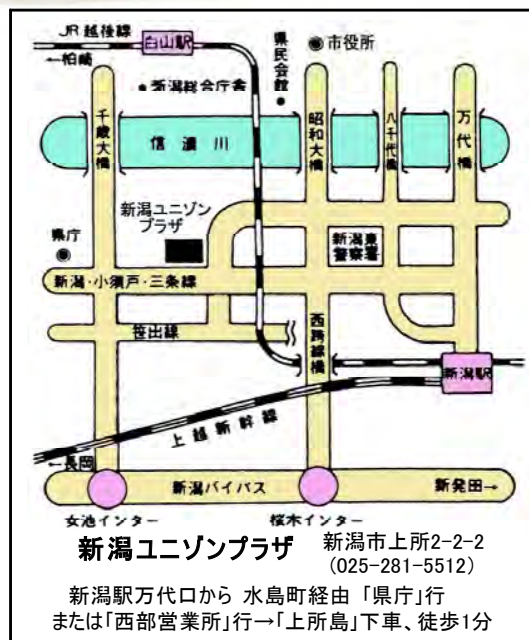
宮尾久美子 氏 (新潟県有機稲作ねっとわあく)

15:20~ 質疑応答・自由討議

16:30 閉会の挨拶

17:00~ 交流会場へバス出発

17:30~ 交流会 「新潟駅前大助本店」で 約2時間
参加費4,000円 (学生2,000円)



◆ 後援

新潟県, 新潟県教育委員会, 新潟市, 新潟市教育委員会, (財)こじし水と緑の会, 新潟県土地改良事業団体連合会, (財)日本自然保護協会, 新潟県自然・環境保全連絡協議会, いがた市民環境会議, 新潟日報社, 朝日新聞新潟総局, 毎日新聞新潟支局, 読売新聞新潟支局, 産経新聞新潟支局, NHK新潟放送局, BSN新潟放送, NST新潟総合テレビ, TeNYテレビ新潟, NT21新潟テレビ21, エフエムラジオ新潟, エフエムポート79.0, エフエム新津

・連絡・お問い合わせ先: 生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局 井上信夫
〒950-0892 新潟市寺山1-8-25 ・Fax. 025-270-2011 ・Mail. Naturewk@basil.ocn.ne.jp

◆ 本シンポジウムは、財団法人 こじし水と緑の会 の助成を受けて開催します

第4回生物多様性シンポジウム



どうなっているの？ 河川や湖沼の生物多様性

・・・水辺の生きものからのメッセー

趣旨

今、日本全国で、全地球規模で、野生生物の多くが絶滅の道を歩み、第二、第三のトキが生まれようとしています。一方、各地で官民をあげて「善意の保護活動」が展開されていますが、かえって自然界を攪乱してしまうケースも少なくありません。

この度のシンポジウムでは、水辺の生物多様性の危機的状況をクローズアップし、保護活動のあり方について考えていきます。

期 日 会 場 日 程

2007年3月25日（日） 10:00～17:00
新潟市鳥屋野地区公民館 4階ホール

9:30～

受付 ・お昼の弁当注文受付（600円）・交流会参加受付

10:00

開会の挨拶 （ネットワーク代表：諸橋潔）

10:15～12:00

基調講演 失われゆく砂丘湖の自然

【講師】福原 晴夫 氏（新潟大学教育人間科学部）

12:00～13:00

昼食休憩 （新潟県ツキノワグマ研究会集会）

13:00～15:20

パネルディスカッション

コーディネーター

鷺尾 和行 氏（植物同好じねんじょ会）：福島県周辺の希少植物

中村 幸弘 氏（上越市立水族博物館館長）：トミヨ属魚類の全県分布調査から

加藤 勝久 氏（新潟県溪流釣り団体連絡協議会）：溪流魚保護活動の現場から

杵渕 謙二郎 氏（新潟市自然環境保全資料作成検討委員）：新潟平野における両生類の現状

渡部 通 氏（東蒲自然同好会）：奥阿賀地域の水鳥の現状

井上 信夫（生物多様性保全ネットワーク新潟）：関川水系の希少種と外来魚調査から

15:30～16:30

質疑応答・自由討議

途中休憩・質問受付

閉会の挨拶 （ネットワーク副代表：松木保）

17:00～

交流会場へバス出発

17:30～

交流会：会場「新潟駅前大助本店」 会費4,000円（学生半額） 約2時間の予定

参加費

一般 500円（資料代）、学生無料

主 催

生物多様性保全ネットワーク新潟





湿地環境としての 新潟平野 その 生物多様性保全を考える

膨大な量の落ち穂が2万羽もの越冬ハクチョウを支える水田地帯、ラムサール登録湿地の佐潟、都市化の波に埋没しそうな鳥屋野潟、ガン・カモ・ハクチョウ渡来地として注目されながらラムサール登録に足踏み状態の福島潟。
そして、福島潟にアイガモが泳いだり、考えさせられる野鳥への人工給餌、問題ある外来魚や、他地域からの動植物の移植放流の話などなど、新潟平野が抱える課題は尽きません。

期 日 2008年3月23日(日)
会 場 新潟県立環境と人間のふれあい館
(新潟水俣病資料館) 1階研修室

日 程
9:30~ 生物多様性保全ネットワーク新潟総会
10:00~ 受付・お昼の弁当注文受付(600円)・交流会参加受付
10:20~ 開会の挨拶 諸橋潔(生物多様性ネット・県環境連代表)

基調講演

【講師】紙谷 智彦 氏 (新潟大学農学部生産環境科学講座)
酒泉 満 氏 (新潟大学理学部 環境生物学講座)

12:30~14:00 昼食休憩 エクスカーション・・・福島潟自然学習園と水鳥観察(案内:福島潟野鳥の会)

14:00~16:30 パネルディスカッション

- ・樋口 正仁 氏 (五泉トゲソの会) :ちょっと待って! 動植物の移植、放流
- ・斉藤 敏郎 氏 (福島潟野鳥の会) :福島潟の野鳥から見た気になる環境変化
- ・長津 正男 氏 (有機稲作ねっとわぁく代表) :安全な作物と生きものを育む有機農業
- ・井上 信夫 (生物多様性保全ネットワーク新潟) :野生動物の尊厳を守るために(コーディネーター兼)

16:30 閉会の挨拶 松木 保 (生物多様性保全ネットワーク新潟副代表)

16:30~17:00 新潟県自然・環境保全連絡協議会総会

17:30~ 交流会: 豊栄駅前「松潟屋」Tel.025-387-3148 会費4,000円(学生半額) 17:20ごろマイクロバス出迎え

参加費 一般 500円(資料代)、学生無料

主催 生物多様性保全ネットワーク新潟, 新潟県自然・環境保全連絡協議会

共催 ねっとわーく福島潟, 福島潟野鳥の会, 有機稲作ねっとわぁく

後援 水土里ネット新潟(新潟県土地改良事業団体連合会), (財)こしじ水と緑の会, 新潟日报社



豊栄駅よりタクシー5分、徒歩30分
TEL:025-387-1450

総会案内 9:30~10:00 生物多様性保全ネットワーク新潟 16:30~17:00 新潟県自然・環境保全連絡協議会

生物多様性保全ネットワーク新潟事務局 井上 〒950-0892 新潟市東区寺山1-8-25
Tel: 025-270-2010 Fax:025-270-2011 Mail: Naturewk@basil.ocn.ne.jp
ホームページ: http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/

連絡・
お問い合わせ先

新潟県自然・環境保全連絡協議会事務局(環境連) 武田 〒951-8065 新潟市中央区東堀通二番町481 丸山ビル3F
Tel:025-228-2133 / Fax:025-224-8825 Mail: kankyoren@gmail.com
ホームページ: http://www2.plala.or.jp/kanren2004/

豊かな自然との共存をめざして・・・ これからの野生鳥獣対策を考える

いま、全国各地でクマやイノシシなどの大型獣が人里に出没し、農業被害や人的被害が多発しています。南魚沼地域も例外ではなく、今年には人里に現れたクマによる人身事故が発生しました。一昨年にも、南魚沼市街地でクマによる重傷事故が発生しています。数年前から定着しはじめたイノシシによる農業被害は増加の一途をたどり、ニホンザルは湯沢地区・清水地区・五十沢地区などを中心に、農地や住宅地まで出没しています。さらに、これまでほとんど見ることがなかったカワウが集団で飛来し、川魚や養殖魚を大量に食害するという新たな問題もおこっています。

昨年12月、「鳥獣被害防止特措法」が成立しましたが、奥山や里山の荒廃、中山間地の過疎化やハンターの減少などによって、問題は深刻化の一途をたどっています。一方、ツキノワグマは、四国・九州・中国地方では個体群の消滅が危惧され、国際的にはワシントン条約で商取引が規制されている絶滅危惧動物でもあります。2006年には県内で500頭以上が駆除され、このまま同じような事態が続くと、絶滅に向かうのではないかと心配する声も聞かれます。

現段階では、野生鳥獣の生息状況も十分に把握されておらず、被害防止と保護管理の行方は見通しが立たない状況です。この度のシンポジウムでは、農業被害や人的被害を防止しながら、野生動物と住み分けていくため、これからの野生鳥獣対策はどうあるべきなのか、専門家の助言を仰ぎながら、現場からの視点で考えてみたいと思います。

期日 2008年11月2日(日) 10:00～16:30

会場 新潟県南魚沼地域振興局 会議室

日程 参加費 500円(資料代)

9:30～ 受付 ・お昼の弁当注文受付(600円)

10:00～ 開会の挨拶 (南魚沼自然塾代表 高橋正明)

祝辞: 南魚沼地域振興局長・南魚沼市長・湯沢町長

10:30～12:00 **基調講演 山本 麻希氏(長岡技術科学大学)**

**大型野生鳥獣とどう向きあっていくか
～効果的な管理・防除にむけて～**

12:00～12:45 昼食休憩

12:45～15:20 **パネルディスカッション**

川永 政利氏(新潟県猟友会南魚沼支部)

高野 輝幸氏(南魚沼市市民生活部環境課環境係長)

内田 大作氏(湯沢町産業観光課産業振興班主任)

佐藤 義法氏(新潟県環境企画課鳥獣保護係長)

梅田 始氏(新潟県ツキノワグマ研究会)

岸元 良輔氏(大型哺乳類研究家 長野県環境保全研究所)

・アドバイザー: 山本麻希氏

・コーディネーター: 井上 信夫(生物多様性保全ネットワーク新潟事務局)

15:30～ 質疑応答

16:30 閉会の挨拶(生物多様性保全ネットワーク新潟 諸橋潔)

18:00～ 交流会(南魚沼市五十沢キャンプ場) 参加費:交流会のみ2,000円・宿泊4,000円(翌朝朝食付き)



NPO日本ツキノワグマ研究所提供

11月3日(月) 文化の日 午前中 エクスカーション「野生鳥獣問題の現場で考える」

・・・南魚沼市五十沢地区(清水瀬・三国川ダム方面を予定)

地元ハンターと日本自然保護協会自然観察指導員がガイドします

主催 ・南魚沼自然塾・よみがえれ魚野川・新潟県ツキノワグマ研究会・生物多様性保全ネットワーク新潟

後援) ・新潟県南魚沼地域振興局 ・南魚沼市 ・湯沢町 ・(社)新潟県猟友会南魚沼支部 ・JA魚沼みなみ
・JAしおざわ ・(財)日本自然保護協会 ・新潟日報社 ・朝日新聞社新潟総局 ・読売新聞新潟支局
・毎日新聞社 ・産経新聞新潟支局 ・魚沼新報社 ・南越新聞社 ・BSN新潟放送 ・UX新潟テレビ21
・エフエム雪国

連絡・問い合わせ 南魚沼自然塾事務局 ・Tel・Fax. 025-785-5526 ・Mail. yukign@lapis.plala.or.jp
生物多様性保全ネットワーク新潟事務局 ・Tel. 025-270-2010 Fax. 025-270-2011
・Mail. Naturewkb@basil.ocn.ne.jp URL. Http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/

この催しは、財団法人自然保護助成基金 PRO NATURA FUND からの助成を頂いて運営します。

第6回 生物多様性シンポジウム

越後平野の 水辺の未来を描く



白鳥渡来地で有名な阿賀野市の瓢湖が、昨年、佐潟に続いて越後平野 2 番目のラムサール条約登録湿地となりました。瓢湖では、鳥インフルエンザへの警戒感などから、水鳥への餌付け規制の論議がおきています。村上市の御幕場大池では、来訪者による餌やりが放任されており、水質汚濁が極度に進行し、希少なトンボが絶滅するなどの問題がおきています。

新潟県内には、福島潟や鳥屋野潟、上越地域の朝日池など、ラムサール登録基準を満たしながらも、条約の「ワイズユース」の精神が浸透せず、足踏み状態となっている湖沼もあります。

本シンポジウムでは、県内各地の湖沼の事例を検証しながら、改めてラムサール条約の「ワイズユース」と「水辺環境の保全」について考えます。また、湖沼や河川、水田地帯を含めた越後平野全域の、ラムサール条約登録の可能性についても検討したいと思います。

- ◆ 期 日 **2009年3月15日(日)**
- ◆ 会 場 **新潟市 豊栄ふれあいセンター**
新潟市北区東栄町1丁目1-18 電話: 025-387-5965
- ◆ 日 程
9:30～ 受付 ・お昼の弁当注文受付(700円) ・資料代500円
10:00～ 開会の挨拶 石月 升 (NPO新潟水辺の会副代表)
祝辞: 新潟市長 篠田 昭 氏



- 10:20～ **基調講演**
・本田清氏 (日本白鳥の会創立会員)
**白鳥から見た
越後平野の現状と将来展望**
・金子与止男氏 (岩手県立大学総合政策学部教授)
湿地の保全と持続可能な利用

- 12:40～ 昼食休憩 エクスカーション: 福島潟 潟舟体験
- 14:00～ **パネルディスカッション**
・大熊 孝 氏 (NPO新潟水辺の会代表): コーディネーター
・本田 清 氏 (講師・アドバイザー)
・金子与止男氏 (講師・アドバイザー)
・佐藤 安男 氏 (佐潟水鳥・湿地センター)
・佐藤 巖 氏 (瓢湖の白鳥を守る会)
・福井 宣明 氏 (NPOねっとわーく福島潟)
・藤田 正 氏 (自然豊かな鳥屋野潟とまちづくりをすすめる会)



白鳥写真はいずれも
本田清氏著「白鳥の湖」から

- 16:30 閉会の挨拶 諸橋 潔 (生物多様性保全ネットワーク新潟代表)
- 17:00～ 交流会 大倉屋(会費 4,000円) 025-387-2017 ...シンポジウム会場から徒歩約5分

- ◆ 主 催 生物多様性保全ネットワーク新潟 ・NPO法人 ねっとわーく福島潟 ・NPO法人 新潟水辺の会
- ◆ 共 催 瓢湖の白鳥を守る会 ・鳥屋野潟21世紀の会 ・自然豊かな鳥屋野潟とまちづくりをすすめる会 ・佐潟環境ネットワーク
佐潟と歩む赤塚の会 ・新潟県自然・環境保全連絡協議会 ・にいがた市民環境会議
- ◆ 後 援 環境省関東地方環境事務所 ・新潟県 ・新潟市 ・豊栄土地改良区 ・(財)こしじ水と緑の会
ラムサールセンター ・(財)日本野鳥の会 ・日本白鳥の会 ・(財)日本自然保護協会

連絡 問い合わせ 生物多様性保全ネットワーク新潟事務局 ・Tel. 025-270-2010 Fax. 025-270-2011
・Mail. Naturewk@basil.ocn.ne.jp URL. [Http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/](http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/)

この催しの運営費の一部に、(財)河川環境管理財団河川整備基金からの助成金を充当しています

第7回生物多様性シンポジウム

トキが選んだ水辺環境

…放鳥トキは生物多様性保全の象徴となりうるか



2008年、2009年に、佐渡島で放されたトキは予想を超えた移動能力を発揮し、5羽のメスが本州に渡った。トキたちは、湧水を伴う湿地状の放棄水田や減農薬田んぼ、素掘りの用水路などの水生動物が豊富な水域をピンポイントで選んで餌場とし、農村や市街地の屋敷林などをねぐらとした。高度に基盤整備が進んだ水田地帯や、あまりにも人工色の濃いピオトープは敬遠されたという。

トキの野生復帰事業は、多くの国民の注目を集め、環境に配慮した農業振興などの波及効果をもたらしている。しかしながら、地域在来の他の動植物や、自然環境をも含めた生態系全体を見直すところまでは至っていない。ここで、トキの視点に立って、動植物相の豊かな水辺環境の特性を再認識するとともに、生物多様性保全に寄与できる農業のあり方や、地域在来の動植物の保護について考えていきたい。

期 日 2010年3月6日(土) ~ 7日(日)

会 場 三条大崎山公園 グリーンスポーツセンター
新潟県三条市柳沢1572 Tel.0256-38-3968

日 程

9:30 ~ **受付** ・お昼の弁当注文受付(600円) ・資料代300円

10:00 ~ **開会の挨拶** 長津正男(新潟県有機稲作ネットワーク)
全体進行:小林良範(三条ホテルの会)

10:10 ~ **基調講演**
“越後に飛来したトキの生態と生息環境”
渡辺 央(新潟県野鳥愛護会)

“トキが暮らす湿地環境…佐渡、中国大陸からのレポート”
関島恒夫(新潟大学超域朱鷺プロジェクト)

12:30 ~ **昼食休憩** ポスターセッション

13:30 ~ **パネルディスカッション**「トキと湿地の生物多様性」

“トキに託す明日の夢” 土屋正起(日本野鳥の会佐渡支部)

“トキが教えてくれるお気に入り” 関谷國男(新潟大学超域朱鷺プロジェクト)

“生きものを育む水田農業をめざして” 山崎哲矢(新潟県有機稲作ネットワーク)

“在来生物の脅威 佐渡のブラックバス” 樋口正仁(生物多様性保全ネットワーク新潟)

・アドバイザー:渡辺 央 ・関島恒夫

・コーディネーター:井上信夫(生物多様性保全ネットワーク新潟)

16:30 **閉会の挨拶** 諸橋 潔(生物多様性保全ネットワーク新潟)

17:00 ~ **交流会** 参加費4,000円 (希望者宿泊)

3月7日(日)午前 **エクスカージョン**「本州に渡ったトキとその生息環境を観察する」

野鳥の会の皆さんの案内で、会場近くで過ごすトキと、生息環境を観察します

主 催 生物多様性保全ネットワーク新潟 ・三条ホテルの会

共 催 新潟県有機稲作ネットワーク ・新潟県自然観察指導員の会 ・NPO法人ねっとわーく福島潟
佐潟環境ネットワーク ・新潟県自然・環境保全連絡協議会 ・NPO法人越の里山倶楽部 ・NPO法人新潟水辺の会

後 援 新潟県 ・三条市 ・新潟県野鳥愛護会 ・新潟大学超域朱鷺プロジェクト ・(財)日本自然保護協会



新潟県三条市柳沢1572
Tel.0256-38-3968



3番メス 2009.2.15 十日町市

連絡
問い合わせ

生物多様性保全ネットワーク新潟事務局 ・Tel. 025-270-2010 Fax. 025-270-2011
・Mail. Naturewk@basil.ocn.ne.jp URL. Http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/
三条ホテルの会事務局 Tel.・Fax.0256-32-5716 ・Mail. koba_sanjo@nifty.com

この催しは、新潟県勤労者福祉事業団からの助成を頂いて運営しています

トキが舞う 生きもの豊かな水辺環境を目ざして … 佐渡島の生物多様性保全を考える

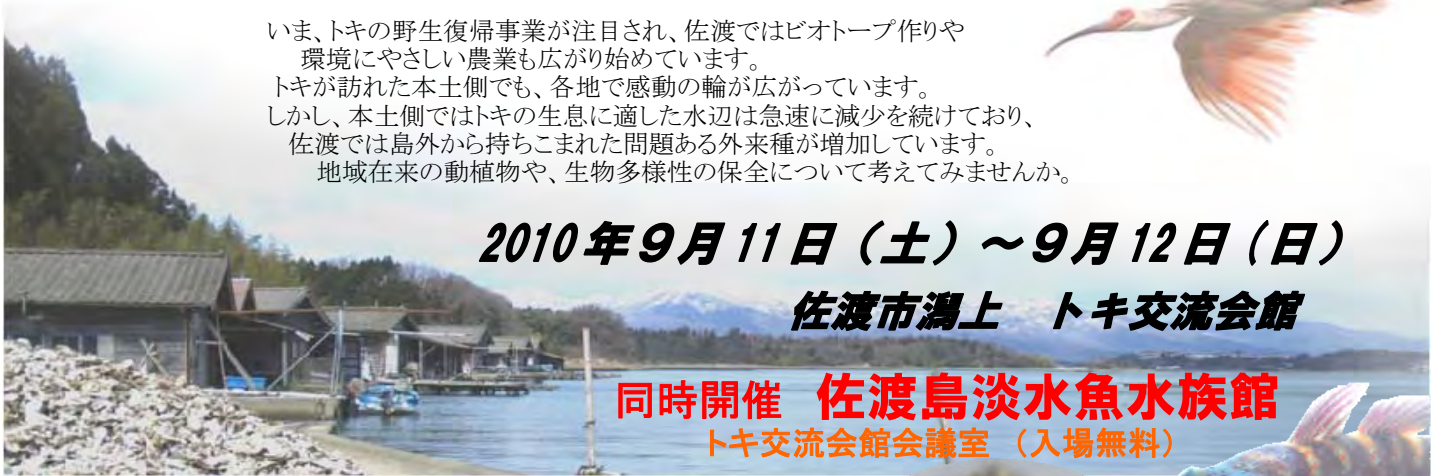
いま、トキの野生復帰事業が注目され、佐渡ではビオトープ作りや環境にやさしい農業も広がり始めています。トキが訪れた本土側でも、各地で感動の輪が広がっています。しかし、本土側ではトキの生息に適した水辺は急速に減少を続けており、佐渡では島外から持ちこまれた問題ある外来種が増加しています。地域在来の動植物や、生物多様性の保全について考えてみませんか。



2010年9月11日(土)～9月12日(日)

佐渡市潟上 トキ交流会館

同時開催 佐渡島淡水魚水族館 トキ交流会館会議室 (入場無料)



シンポジウム 9月11日(土)

9:00 参加者受付 【シンポジウム資料代 500円】 【弁当注文受付600円】

9:30 開会 主催者挨拶: 佐渡とき保護会 土屋 正起

9:40 基調講演 **「外来生物防除をめざす市民活動と地域パートナーシップ」**

小林 光 (全国ノーバスネット事務局長)

10:40 活動報告 「トキ野生復帰事業が目ざすもの」 環境省佐渡自然保護官事務所 笹淵 紘平
「生物多様性向上と地域戦略」 新潟大学超域朱鷺プロジェクト 関島 恒夫
「地域住民による川と田んぼの環境保全」 潟上水辺の会代表 板垣 徹

12:40 昼食休憩 「オオクチバス・ブルーギル料理の紹介」

13:30 活動報告 「ため池に現れる外来生物」 新潟大学超域朱鷺プロジェクト 西川 潮
「佐渡における天敵導入と在来生態系の危機」 元両津郷土博物館館長 矢田 政治
「佐渡島の淡水魚類相とその変遷」 生物多様性保全ネットワーク新潟 井上 信夫

15:40 会場との意見交換(50分) コーディネーター: 伊藤 正一

16:40 閉会 主催者挨拶: 生物多様性保全ネットワーク新潟代表 諸橋 潔

18:00 交流会 ～21:00 トキ交流会館大ホール 【参加費 3,000円】

宿泊希望者: トキ交流会館 【宿泊費: 朝食代込み 3,700円】

エクスカーション 9月12日(日)

9:00 当日参加者受付 9:30～12:00…天王川水系現地研修
オオクチバス・ブルーギルの捕獲・観察、水田魚道見学

主催: 生物多様性保全ネットワーク新潟

共催: 潟上水辺の会 ・NPO法人トキとき応援団 ・佐渡とき保護会 ・伝統文化と環境福祉の専門学校
ブラックバス問題新潟委員会 ・新潟県自然・環境保全連絡協議会

後援: (財)こじじ水と緑の会 ・関東地方環境事務所 ・新潟県 ・佐渡市 ・新潟大学超域朱鷺プロジェクト
佐渡島加茂湖水系再生研究所 ・加茂湖漁業協同組合 ・国府川漁業協同組合 ・羽茂川内水面漁業協同組合
JA佐渡 ・JA羽茂 ・新潟県土地改良事業団体連合会 ・(財)日本自然保護協会 ・全国ブラックバス防除市民ネットワーク

参加申し込み 9月4日(土)まで下記にお申し込みください

連絡・お問い合わせ先 生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局

Tel. 025-270-2010 Fax. 025-270-2011

Mail. naturewk@basil.ocn.ne.jp



第8回生物多様性シンポジウム 野生生物との共生をめざして!

… 人と野生生物の関わり方を見なおす …



今、全国各地で、鳥インフルエンザに感染したツルやガンカモ類などが見つか
り、九州や中部地方では養鶏場へと感染が広がっています。人工給餌により人間
生活の身近に野生鳥獣が集中することの危険性が、改めてクローズアップされま
した。また、人の手によって外来生物や遺伝的に異なる他地域のホタルやメダカが
持ちこまれたり、錦鯉やアイガモ、園芸植物が自然界に放たれています。

このシンポジウムでは、野生生物との関わり方を見直し、在来自然の大切
さをいかにして伝えていくのか、ともに考えていきたいと思ひます。



◆ 期 日 2011年3月5日(土) ~6日(日)

◆ 会 場 角田浜「寿館」
新潟市西蒲区角田浜前原1072 電話:0256-77-2231

◆ 日 程

3月5日(土) 講演会

9:30~ 受付 (昼食・交流会・宿泊希望受付)

10:00~ 開会の挨拶: 自然観察指導員の会会長 平澤聡氏

10:10~ 開催趣旨と問題提起(主催者事務局)

10:45~ 基調講演 田辺 慎一 氏 (国際自然環境アウトドア専門学校)

伝えたい本当の自然の大切さ…フィールドでの教育を通して

12:15~ 昼食休憩 (希望者: 寿館特製のカレーライス)

13:00~ 事例発表

・藤田 久 氏 (巻森林ボランティア・巻機山を守るボランティアの会)

: 登山道の保全と再生のルールを求めて

・高野瀬洋一郎氏 (新潟大学超域研究機構): 鳥の種子散布から学ぶ森づくり

・佐藤 安男 氏 (佐潟水鳥・湿地センター): 佐潟の人と水鳥の関係を観てきて

・樋口 正仁 氏 (新潟県内水面水産試験場): 在来イワナを遺伝子攪乱から守るには

16:30 閉会の挨拶: 諸橋 潔 (主催者代表)

17:00~ 交流会

3月6日(日)午前 エクスカーション (当日のみの参加も可)

「角田山麓の自然と、トキの生息地を訪ねて」

7:00~ 朝食 見学コースの説明

8:00~ 角田岬…七面大天女岩屋…仁箇堤…上堰潟…佐潟

【自然保護協会自然観察指導員・野鳥の会会員が案内します】

12:00 佐潟水鳥湿地センター前で現地解散

角田山麓で暮らす18番トキ
Photo by Takanose

参加費等 参加費500円/希望者: 昼食代600円/希望者: 交流会費3,000円 (宿泊費込み 5,500円)

◆ 主 催 生物多様性保全ネットワーク新潟

◆ 共 催 佐潟環境ネットワーク ・ねとわーく福島潟 ・五泉トゲソの会 ・にいがた里山研究会
巻機山を守るボランティアの会 ・新潟県イワナ保存会 ・越の里山倶楽部 ・南魚沼自然塾

◆ 後 援 (財)こじし水と緑の会 ・新潟県自然・環境保全連絡協議会 ・新潟県自然観察指導員の会

連 絡 生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局 ・Tel. 025-270-2010 Fax. 025-270-2011
問い合わせ ・Mail. naturewk@basil.ocn.ne.jp URL. Http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/



シーサイドラインのすぐ横



上越地域 外来魚問題シンポジウム 希少種の保護と外来生物対策

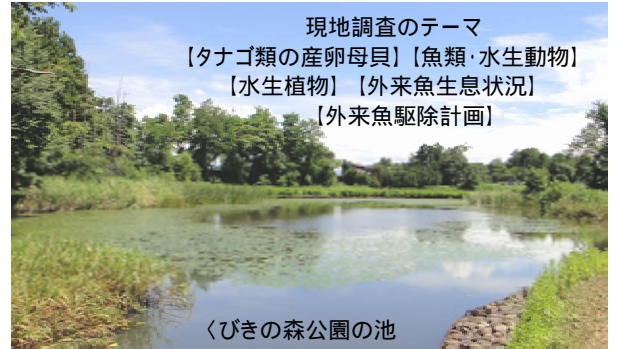
アカヒレタビラ(上越市RDB絶滅危惧類)

新潟県上越地域の高田平野は極めて豊かな水環境を擁し、天然の潟湖から人工の溜池まで、大小70以上の池沼が分布しています。しかし、そのほとんどに「特定外来生物」のブラックバス類とブルーギルが定着し、在来生態系は危機的状況下におかれています。先日、上越市レッドデータブックが刊行されましたが、希少魚種の避難先確保のための現地調査を行い、生物多様性保全の推進に向けた研修を行います。

日程と活動の概要 2011年11月12日～13日(土・日)

11月12日(土) ワークショップ 「希少魚種の避難候補地の現地調査」

- 9:30 受付: 上越市頸城区くびきの森公園第1駐車場
- 10:00 開会式 挨拶: 古澤良彰(関川水系生態系保全協議会代表)
参加者は希望のテーマの調査を担当
- 15:00 大池いこいの森ビジターセンターへ移動
- 15:30 グループごとに現地調査のまとめ
- 17:30 調査結果発表会
- 18:30 交流会 (希望者宿泊)
(交流会参加費 2,000円・宿泊参加費 3,000円)



11月13日(日) 講演会・現地研修 (参加費: 無料)

- 6:30 朝食前の散策: 大池の森の自然探訪・ピオトープの見学(希望者)
- 7:30 朝食～講演会場設営
- 9:00 開会式 挨拶: NPO法人くびき里やま学校理事長
祝辞: 上越市 損保ジャパン

9:10 基調講演 中井克樹氏 (滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員)

トキだけじゃない、身近な宝物～地域の生物多様性を守ること

10:50 事例発表: 上越地域の希少生物と保護活動

- ・五百川 裕氏(上越教育大学)
: 上越市レッドデータブックの概要と水辺の絶滅危惧植物
- ・中村幸弘氏(上越市立水族博物館): 上越市のレッドデータの魚たち
- ・馬場吉弘氏(新潟県立糸魚川白嶺高等学校)
: 上越市に生息する希少タナゴ類の生息状況とその保全策を考える

12:30 閉会式 挨拶 諸橋潔(生物多様性保全ネットワーク新潟代表)

- 12:40 昼食休憩 ポスター発表
希望者には、昼食弁当(600円前後)を手配します

- 13:30～15:30 現地研修会
大潟水と森公園～朝日池にて外来魚の捕獲と観察



ワカサギ
(上越市RDB絶滅)



シナイモツゴ
(上越市RDB絶滅危惧類)

参加者服装・装備 傷害保険は主催者が一括加入します

- ・1日目現地調査: 汚れてもよい服装 雨天決行・見学だけでも結構です・漁具は主催者が準備
雨具・着替え・長靴・持っている方はウエイダー・帽子・手袋(魚を捕らえるとき)・昼食・飲み物(お茶等)
- ・2日目現地研修会: 野外活動に適した服装
雨具・トレッキングシューズ・帽子・昼食・飲み物(お茶等)・持っている方は双眼鏡・魚捕獲希望者は1日目と同様の服装・装備

主催: 生物多様性保全ネットワーク新潟 関川水系生態系保全協議会 ブラックバス問題新潟委員会
NPO法人くびき里やま学校

共催: 国際自然環境アウトドア専門学校 NPO法人くびき野NPOサポートセンター

協力: 新潟県立糸魚川白嶺高等学校生物部 日本NPOセンター

後援: 新潟県 上越市 頸城土地改良区 朝日池土地改良区 関川水系漁業協同組合 新潟県自然観察指導員の会
新潟県自然環境保全連絡協議会 全国ブラックバス防除市民ネットワーク (財)日本自然保護協会

助成: 損保ジャパン Save Japan Project

第9回生物多様性シンポジウム

希少生物の保護と移植・放流を考える

…地域在来の遺伝子集団を守るために…



生息環境の悪化や乱獲、外来種の侵入、人的管理の放棄などによって、多くの在来生物が生存の危機に直面し、絶滅が危惧される動植物種は増加の一途をたどっています。一方、環境意識の高まりに伴って、希少生物の保護活動や自然再生に取り組む団体も増えてきています。しかしながら、中には他地域原産の動植物や飼育動物、園芸植物が無秩序に自然界に放され、在来生態系への悪影響や遺伝子汚染が懸念される事態もおきています。

本シンポジウムでは、動植物を移植・放流する際の留意点や問題点を検証し、地域在来の動植物の保護のあり方を考えてみたいと思います。

◆ 期 日 2012年3月10日(土)～11日(日)

◆ 会 場 三条市大崎山公園 グリーンスポーツセンター
新潟県三条市柳沢1572 Tel.0256-38-3968

◆ 日 程

9:30～ 受付・参加費 1,000円 お昼の弁当注文受付(600円)

10:00～ 開会の挨拶
:NPO法人にいがた里山研究会理事長 岩崎 武
祝辞:三条市市民部環境課環境政策室室長
金子 成郎 様

10:10～ 基調講演

樋口 正仁 氏 (NPO法人五泉トゲソの会理事)
「地域固有集団に配慮した野生生物の保全を考え」

11:40～ ポスターセッション・大崎山の昆虫標本の紹介

12:10～ 昼食休憩

13:00～ 事例発表、パネルディスカッション

鈴木 得夫 氏 (セナミスミレを育む会事務局)
「本物のセナミスミレ」の保護をめざして

森田 竜義 氏 (新潟大学名誉教授)
在来種の保全と帰化植物—雑種タンポポの話題を中心

平澤 聡 氏 (新潟県ホタルの会事務局)
ホタル保護活動と里山保全

野村 卓之 氏 (マリンピア日本海)
遺伝的系統を考慮した水族館の希少動物保護

・アドバイザー:樋口正仁氏

・コーディネーター:井上 信夫(多様性ネット事務局)

16:30 閉会の挨拶 :生物多様性保全ネットワーク新潟代表 諸橋 潔

17:00～ 交流会 参加費 3,000円

交流会～宿泊費～朝食代込み:三条市内参加者4,000円、市外参加者4,500円

3月11日(日)午前 エクスカーション

9:00発 五十嵐川流域～八木鼻～大谷ダム～諸橋記念館(解散・昼食)

◆ 主 催 生物多様性保全ネットワーク新潟・NPO法人にいがた里山研究会

◆ 共 催 NPO法人ねっとわーく福島潟・佐潟環境ネットワーク・NPO法人五泉トゲソの会
セナミスミレを育む会・NPO法人新潟水辺の会・NPO法人越の里山倶楽部・南魚沼自然塾
新潟県ホタルの会・新潟県自然・環境保全連絡協議会・新潟県自然観察指導員の会

◆ 後 援 新潟県・三条市・(財)日本自然保護協会・(財)こしじ水と緑の会

連絡
問い合わせ

生物多様性保全ネットワーク新潟事務局・Tel. 025-270-2010 Fax. 025-270-2011
・Mail. naturew@basil.ocn.ne.jp URL. Http://www.geocities.jp/biodiversitynetnigata/
NOP法人にいがた里山研究会事務局 Tel.・Fax.0256-32-5716 ・Mail. koba_sanjo@nifty.com



三条燕ICから約9km、車で30分。国道289号線、中小企業大学校入口交差点左折、緩やかな上り坂を上り詰めたカーブで右折。この先、交差点に案内表示あり。



第10回生物多様性シンポジウム 絶滅が心配される生きものたち

…レッドデータブックに見る希少種保護の現状



◆ 期 日 2013年3月2日(土)～3日(日)

◆ 会 場 新潟県立 環境と人間のふれあい館
(新潟水俣病資料館) 電話:025-387-1450
新潟市北区前新田乙364-7

◆ 日 程

9:30～ 受付 ・参加費 500円(学生無料)
昼食弁当受付(600円)

10:00～ 開会

10:10～ **基調講演**

氷河期の生き証人 ライチョウの現状と未来
国際自然環境アウトドア専門学校 長野 康之 氏

12:00～ 昼食休憩

12:45～ **パネルディスカッション**
希少種保護の現状と課題

アドバイザー 長野 康之 氏

コーディネーター 樋口 正仁 (多様性ネットワーク副代表)



【シンポジウム会場】環境と人間のふれあい館



中条のイバラトミヨ

県北におけるトミヨ類の生息環境と保護活動
イバラトミヨ・水芭蕉の会 富樫 繁春 氏

絶滅の道を歩むニホンイヌワシの現状とその保全
兵庫県立人と自然の博物館 布野 隆之 氏

野生鳥獣の保護管理と生物多様性地域戦略
新潟ワイルドライフリサーチ会長 山本 麻希 氏

16:00 閉会

17:00～ **交流会** 新潟市江南区稲葉 實相寺
参加費 3,000円 (学生1,000円、宿泊こみ:3,500円)

※宿泊には毛布または寝袋が必要です

3月3日(日) 午前 **エクスカーション**

9:00発 阿賀野川～瓢湖～福島潟方面

参加申込 2月23日(土)までに別紙申込書を事務局へ

◆ 主 催 生物多様性保全ネットワーク新潟

◆ 共 催 NPO法人ねっとわーく福島潟 ・NPO法人五泉トゲソの会 ・NPO法人加治川ネット21 ・イバラトミヨ・水芭蕉の会
佐潟環境ネットワーク ・新潟ワイルドライフリサーチ

◆ 後 援 新潟県自然・環境保全連絡協議会 ・新潟県自然観察指導員の会 ・NPO法人越の里山倶楽部
国際自然環境アウトドア専門学校 ・公益財団法人こじし水と緑の会



【交流会場】旧亀田町稲葉 實相寺(じっそうじ)
シンポジウム会場から15km、車で約25分
詳細なルート図は申込書に掲載してあります

第11回生物多様性シンポジウム 水辺を支配する外来カメ類

・・・放されたペットは自然界の脅威



新潟のあちこちの水辺で、外来種のカメが増えています。市街地の公園の池では、甲羅干しするミドリガメ(アカミミガメ)が目立つようになり、産卵する親ガメや生まれて間もない子ガメも見つかっています。大型のカミツキガメやワニガメもときおり発見され、外来のカメたちが水辺を支配しようとしています。在来のカメや水生小動物、水草への影響が心配されます。

- ◆ 期 日 2014年 3月8日(土)～9日(日)
- ◆ 会 場 新潟県立 環境と人間のふれあい館
(新潟水俣病資料館) 電話:025-387-1450
新潟市北区前新田乙364-7
- ◆ 日 程
 - 9:30～ 受付 ・参加費 500円(学生無料)
屋食弁当受付(700円)
 - 10:00～ 開会 挨拶:多様性ネット副代表 松木 保



10:10～ 基調講演

アカミミガメ問題の現状と対策
片岡 友美 氏 (認定NPO法人 生態工房)

12:00～ 屋食休憩 (多様性ネット総会～12:20)
希望者には福島潟をご案内します

13:30～ パネルディスカッション

アドバイザー 片岡 友美 氏 (認定NPO法人 生態工房)

新潟県内の淡水ガメの記録
野村 卓之 氏 (新潟市水族館 マリンピア日本海)

カミツキガメの移入と定着の歴史
小林 頼太 氏 (新潟大学朱鷺・自然再生学研究中心)

コーディネーター
井上 信夫 (生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局)

16:00 閉会 挨拶:多様性ネット代表 諸橋 潔
17:00～ 交流会 新潟市江南区稲葉 實相寺
参加費 3,000円(学生1,000円)
宿泊を希望される方は寝袋を持参ください。



3月9日(日) 午前 エクスカーション

9:00発 阿賀野川河畔～瓢湖方面
当日集合場所:大阿賀橋たもとの河川公園

参加申込 別紙申込書をメールまたはFAXで提出下さい

- ◆ 主 催 生物多様性保全ネットワーク新潟
- ◆ 共 催 ブラックバス問題新潟委員会 ・NPO法人ねっとわーく福島潟 ・NPO法人溪流再生フォーラム
佐潟環境ネットワーク ・NPO法人加治川ネット21 ・NPO法人五泉トゲソの会 ・NPO法人新潟水辺の会
東蒲自然同好会 ・イバラトミヨ・水芭蕉の会 ・いわふね自然愛好会
- ◆ 後 援 新潟県自然・環境保全連絡協議会 ・新潟県自然観察指導員の会 ・NPO法人越の里山倶楽部
日本自然環境専門学校 ・公益財団法人こしじ水と緑の会
- ◆ 協 力 新潟市水族館 マリンピア日本海 ・長岡市寺泊水族博物館 ・上越市立水族博物館

連絡 生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局 ・Tel・Fax: 025-270-2010
問い合わせ ・Mail. naturewk@basil.ocn.ne.jp URL. Http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/

第12回 生物多様性シンポジウム 在来生物に新たな脅威 …県境を越える侵略的外来種



地域在来の多くの生きものたちが、外来生物によって、生存が脅かされています。福島県裏磐梯に持ち込まれた侵略的外来種 ウチダザリガニは、阿賀野川を下って新潟県側まで侵入し、新潟市横雲橋まで達したとの情報があります。

裏磐梯から内の倉ダムへ持ち込まれたと思われるコクチバスは、加治川河口部まで広がり、長野・福島両県から流下したコクチバスは新潟市まで達し、途中の支川や農業用水路にまで遡上し始めています。次々と持ち込まれる新たな外来種、追い詰められる在来生物、対策が追いつかない現状に対して、私たちに何ができるか考えたいと思います。

◆ 期 日 2015年 3月7日(土) ~8日(日)

◆ 会 場 新潟市江南区 大江山公民館
新潟市江南区細山401番地 電話:025-276-2691
大江山農村環境改善センター内

◆ 日 程

9:30~ 受付 ・参加費 500円(学生無料)
昼食弁当受付(お茶付き600円)

10:00~ 開会 経過報告

10:30~ **基調講演**

(仮) 侵略的外来種対策 新たな展開
中井 克樹 氏(琵琶湖博物館)

12:10~ 昼食休憩 希望者:阿賀野川散策(好天時)

13:20~ **レポートと提言**

- ・阿賀野川に定着したウチダザリガニ…「食べて駆除」は可能か
五十嵐 洋祐 氏(阿賀町在住)
- ・朱鷺の島 佐渡で進める外来種対策
近藤 敬一 氏(佐渡在来生物を守る会事務局長)
- ・内の倉ダム湖におけるコクチバス駆除の成果と課題
本間 智晴 氏(新潟県内水面水産試験場資源課)
- ・水族館が取り組む希少種保護活動
石川 訓子 氏(新潟市水族館マリニピア日本海)
- ・アドバイザー 中井 克樹 氏

16:00 閉会 交流会参加者移動

17:30~ **交流会** 阿賀野市 出湯 すからべ庵(囲炉裏のある古民家)
参加費 3,000円(学生1,000円)
宿泊を希望される方は寝袋を持参ください。



3月8日(日) 午前 **エクスカーション**

瓢湖~福島潟方面
当日集合: 9:30am 瓢湖白鳥会館前駐車場

参加申込 2月28日(土)まで 別紙申込書を
メールまたはFAXで提出下さい

◆ 主 催 生物多様性保全ネットワーク新潟・ブラックバス問題新潟委員会

◆ 共 催 NPO法人溪流再生フォーラム・NPO法人ねっとわーく福島潟・NPO法人五泉トゲソの会・東蒲自然同好会
佐潟環境ネットワーク・NPO法人加治川ネット21・NPO法人新潟水辺の会・佐渡在来生物を守る会・NPO法人越の里山倶楽部

◆ 後 援 新潟県・新潟市・新潟県内水面漁業協同組合連合会・全国ブラックバス防除市民ネットワーク
新潟県自然観察指導員の会・新潟県自然・環境保全連絡協議会

◆ 協 力 新潟市水族館 マリニピア日本海

連絡 生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局 〒950-0892 新潟市東区寺山1丁目8-25
問い合わせ ・Fax: 025-270-2010 ・Mail: naturewk@basil.ocn.ne.jp URL: Http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/



第13回 生物多様性シンポジウム

検証! 生物多様性の危機!

……外来種問題を洗いなおす



平成28年 3月5日～6日

地球規模で生物多様性の危機が叫ばれている中、我が国では2008年に「生物多様性基本法」が成立、これに基づいて「生物多様性国家戦略2010」が策定され、地方公共団体の「生物多様性地域戦略」の策定が努力義務とされました。現在、全国35都道府県で策定済み、県内では新潟市および佐渡市で策定されましたが、新潟県ではまだ策定に至っていません。

生物多様性保全の障害となる外来種対策については、2005年に「外来生物法」が施行されて10年が経過、2015年には新たに「生態系被害防止外来種リスト」が公表されました。

これによって我が国の環境政策がどう変わるのか、今、私たちにどのような行動が求められているのか、改めて考えてみたいと思います。

- ◆ 期 日 **2016年3月5日(土)～6日(日)**
- ◆ 会 場 **巻農村環境改善センター**
新潟市西蒲区福井3975-1 電話:0256-72-8848
- ◆ 日 程
9:30～ 受付
10:00～ 開会

・参加費 500円 (学生無料)
昼食弁当受付(お茶付き700円)



シンポジウム会場
巻農村環境改善センター

交流会場(宿泊地)
旧庄屋 佐藤家

10:20～12:00 基調講演

生物多様性地域戦略が目ざすもの …県内の事例と今後の展望

新潟大学農学部生産環境科学科 関島 恒夫 氏

12:00～13:20 昼食休憩 12:30～13:10 希望者はボランティアの森～金鉢清水付近散歩

13:20～16:00 パネルディスカッション 現場からのレポート 外来種問題 最前線

- ◆ 外来・園芸植物の植栽…「善意」の活動がもたらすもの
古澤 和子 氏 (環境カウンセラー)
- ◆ 次々持ち込まれる外来魚……水面下で密かに進行する置き換わり
樋口 正仁 (当会 副代表)
- ◆ 粟島におけるノネコの捕食被害の検証と生息数調査
和賀 菜苗 氏 (長岡技術科学大学野生動物管理工学研究室)
- ◆ 「生態系被害防止外来種リスト」から考える 今どきのペット事情
井上 信夫 (当会 事務局)



巻農村環境改善センター



16:00 閉会 交流会参加者は会場移動

17:30～ 交流会 福井旧庄屋 佐藤家 (保存民家)

交流会参加費 2,500円 (学生1,000円)

宿泊費(交流会参加費を含む) 5,000円 (学生3,000円)

※宿泊希望者は寝袋を持参ください(お持ちでない方はご相談下さい)

3月6日(日) エクスカーション 9:30 佐藤家駐車場集合

矢垂川～角田岬～上堰湯～佐潟 ※予定: 昼食前に解散

- ◆ 主 催 生物多様性保全ネットワーク新潟
- ◆ 共 催 矢垂くらぶ・NPO法人越の里山倶楽部・ナチュラリストサロン山のともだち
- ◆ 後 援 全国ブラックバス防除市民ネットワーク・新潟県自然・環境保全連絡協議会
NPO法人新潟ワイルドライフリサーチ・新潟県自然観察指導員の会・にいがた市民環境会議



旧庄屋 佐藤家

連絡
問い合わせ

生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局

〒950-0892 新潟市東区寺山1丁目8-25

・Tel・Fax: 025-270-2010

・Mail. naturewk@basil.ocn.ne.jp

・URL. <http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/>

野生動物シンポジウム 2016

鳥獣被害対策 と 保護・共生の道をさぐる…

近年、クマやイノシシなどの野生動物が農地や人里に出没する事例が増加しており、農業被害が深刻化し、人身被害も発生しています。新潟県内では、4～8月のツキノワグマ目撃件数は過去10年間で最多となっています。さらに今秋はブナの実の凶作年に当たり、農地や人里への大量出没が心配されています。イノシシも急増、各地で農業被害が発生しています。一方、ツキノワグマは全国的には減少傾向にあり、絶滅が危惧される地域もあります。鳥獣被害防止と保護対策を、いかに両立させて行くのか解決策を探ります。

◆日程・会場

平成28年10月22～23日

10月22日(土)

講演会：小千谷市民学習センター 楽集館

交流会・宿泊：小千谷市民の家おぢや～る

10月23日(日)

エクスカージョン：魚沼市湯之谷地区

10月22日(土) 講演会・交流会

9:30 受付開始 小千谷市民学習センター3Fホール

10:00 開会

10:10～12:30 講演第一部

・山本麻希氏 (NPO 法人 新潟ワイルドライフリサーチ)

「新潟県における野生動物問題の現状と課題」

・岸元良輔氏 (NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会)

「捕獲で被害は抑えられない

～総合的な被害対策の必要性和その体制～」

〈12:30～13:20 昼食休憩〉 標本展示

13:20～13:45 現場からのレポート

・曳田逸久氏 (南魚沼自然塾・新潟県猟友会南魚沼支部)

「南魚沼における鳥獣被害の経緯と現状」

13:45～14:50 講演第二部

・望月翔太氏 (新潟大学自然科学研究科)

「野生動物のモニタリング手法と管理への活かし方」

14:50～15:20 総合討論…解決策を探る

15:20 閉会

17:00～ 交流会 小千谷市民の家 (希望者宿泊)

10月23日(日) エクスカージョン

「野生鳥獣問題の現場を見る」

9:00 小千谷市民の家発…10:00 魚沼市交流センター ユピオ前

魚沼市(旧湯之谷村) 大湯～駒ノ湯温泉～枝折峠方面

案内・解説：佐藤正氏 (新潟県猟友会魚沼支部長)

12:30 ごろ現地解散予定



- ・主催：生物多様性保全ネットワーク新潟
- ・共催：小千谷市教育委員会 ・雪国自然学校 ・みちばた案内人の会
南魚沼自然塾 ・津南町自然に親しむ会 ・ NPO 法人越の里山倶楽部
- ・後援：新潟県 ・NPO 法人新潟ワイルドライフリサーチ
新潟県自然観察指導員の会 ・新潟県自然・環境保全連絡協議会

◆参加費 (学生割引額)

- 資料代・傷害保険料を含む
- ・シンポジウム：500円 (無料)
- ・交流会：3,000円 (1,500円)
- ・交流会および宿泊：5,000円 (2,500円)

連絡先 生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局 〒950-0892 新潟市東区寺山1丁目8-25

Tel・Fax: 025-270-2010 Mail: naturewk@basil.ocn.ne.jp URL: <http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/>

この催しは 公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団 の助成を受けて実施します

第14回 生物多様性シンポジウム

変貌する水生植物の世界

平成28年(2017)

3月4日(土)~5日(日)

今は見られないタヌキモの花
(新潟市じゅんさい池)

3月4日(土) 講演会・意見交換会

- ◆ 会場 環境と人間のふれあい館 研修室
新潟市北区福島潟湖畔 電話:025-387-1450
- ◆ 日程 9:30~ 受付 ・参加費 500円(学生無料)
10:00~ 開会

10:10~12:30 基調講演

日本の水辺を外来水草から守ることは可能か
新潟大学教育学部 自然情報講座 志賀 隆氏

新潟県の水草…希少種保護の現状と外来水草
水草研究会 刈屋 寿氏

〈昼食休憩〉12:30~13:30

13:30~15:00 現場レポート 新潟県内における水草の現状

絶滅危惧種イバラトミヨ生息地の水草保全
NPO法人五泉トゲソの会 中村 吉則氏

福島潟治水工事で現れた水草とその後の状況
NPO法人ねっとわーく福島潟 福井 宣明氏

姿を消すじゅんさい池の希少水草…その原因は？
生物多様性保全ネットワーク新潟 井上 信夫

15:00~16:00 意見交換 会場トーク
16:00 閉会

17:30~ 交流会~宿泊

交流会:ぼっぼ五頭(五頭自然学校) 参加費 3,000円(学生1,000円)
宿泊:生協の家ささかみ 参加費(交流会を含む) 5,000円(学生3,000円)

3月5日(日) エクスカーション

9:30~ ビュー福島潟 駐車場集合 福島潟周辺(予定)
福島潟 周辺 昼食前に解散予定

参加申込 3月2日(木)までに、下記事務局へお申し込みください

- ◆ 主催 生物多様性保全ネットワーク新潟
- ◆ 共催 NPO法人ねっとわーく福島潟 ・ NPO法人 五泉トゲソの会
日本自然環境専門学校 ・ 五頭自然学校
- ◆ 後援 新潟市 ・ 「水の駅ビュー福島潟」福島潟みらい連合
にいがた市民環境会議 ・ 新潟県自然観察指導員の会
新潟県自然・環境保全連絡協議会

申込み
問い合わせ先

生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局 〒950-0892 新潟市東区寺山1丁目8-25
・Te・Fax: 025-270-2010 ・Mail: naturewk@basil.ocn.ne.jp
・URL: <http://www.geocities.jp/biodiversitynetniigata/>



生物多様性の宝庫 里山に迫る危機



4月21日(土) 講演会・意見交換会

- ◆ 会場 **環境と人間のふれあい館 研修室**
新潟市北区福島潟湖畔 電話: 025-387-1450
- ◆ 日程
9:30~ 受付 ・参加費 500円 (学生無料)
10:00~ 開会

趣旨説明 **里山で進行する新たな危機**
生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局

人々の暮らしを支え、そして人々によって守り育てられてきた里山。今、全国で過疎化が進行し、守り手のいなくなった里山では、その豊かさが急速に失われつつあります。かわって増加する外来動植物やこれまで見られなかった大型動物、マニアや営利目的の希少動植物の採取や盗掘が問題化しています。近年は未舗装の山道を走るトレイルランニングが盛んになっており、地域振興や健康増進に寄与する半面、環境への負荷を心配する声もあります。

11:00~ 基調講演

乱獲から希少生物を守る「魚沼市自然環境保全条例」
星 雅美 氏 (NPO法人魚沼自然大学代表)

(昼食休憩)

12:50~ **福島潟早春ガイドウォーク**
案内人: 福井 宣明 氏 (ねっとわーく福島潟)

14:00~ **パネルディスカッション**
今、里山で何がおきているのか・・・

コーディネーター **諸橋 潔** (生物多様性保全ネットワーク新潟 代表)

- パネリスト **星 雅美 氏** (NPO法人魚沼自然大学代表)
- 佐々木 隆正 氏** (佐渡在来生物を守る会幹事)
花の島 佐渡ドンデン山を守る! フランスギク対策の取り組み
- 藤田 久 氏** (新潟県自然観察指導員の会)
登山者の増加による登山道荒廃の実態とその対策

16:00 閉会

17:30~ 交流会 ~ 宿泊

交流会: ぼっぼ五頭(五頭自然学校) 参加費 3,000円 (学生1,000円)
宿泊: 生協の家ささかみ 参加費(交流会を含む) 5,000円 (学生3,000円)

4月22日(日) エクスカーション

9:30~ 五頭山麓 ・案内人: 五頭自然学校 ※やまびこ通りを予定。残雪、天候状況により変更の可能性あり

- ◆ 主催 生物多様性保全ネットワーク新潟
- ◆ 共催 NPO法人ねっとわーく福島潟
一般社団法人 五頭自然学校 ・日本自然環境専門学校
- ◆ 後援 NPO法人魚沼自然大学 ・佐渡在来生物を守る会
にいがた市民環境会議 ・新潟県自然観察指導員の会
新潟県自然・環境保全連絡協議会

参加申込 4月17日(火)までに、下記事務局へお申し込みください

お問い合わせ先 **生物多様性保全ネットワーク新潟 事務局**
〒950-0892 新潟市東区寺山1丁目8-25
・Te・Fax: 025-270-2010 ・Mail: naturewk@basil.ocn.ne.jp



分布域を拡大する外来生物 人里に進出する大型動物



特定外来生物
ウチダザリガニ

第一部 シンポジウム

1月11日(土) 13:30 受付開始 14:00~16:30

・阿賀町におけるウチダザリガニの 現状と食材利用の可能性

阿賀町ザリガニクラブ 五十嵐 洋祐 氏
阿賀町地域おこし協力隊 堀口 一彦 氏

・人里～市街地まで進出する中・大型哺乳類

生物多様性保全ネットワーク 井上 信夫

資料代300円(学生無料 受付で頂きます)



西蒲区に出没したイノシシ
齋藤一雄氏提供

会場：巻農村環境改善センター

新潟市西蒲区福井 3975 番地 1
☎ 0256-72-8848

※終了後、交流会参加者は会場移動

第二部 新年交流会 17:00 開宴

駆除した外来生物、ジビエをいただく
阿賀野川のウチダザリガニ・南魚沼の
クマ・イノシシ・シカほか手作り料理

会場：福井旧庄屋 佐藤家

参加費：3,000円(学生1,500円)
交流会・宿泊費 5,000円(学生3,000円)



第三部 現地研修会

イノシシ出没現場を見る

新潟市西蒲区角田山麓
案内：上堰瀧公園を育てる会
齋藤一雄氏

1月12日(日)9:00 上堰瀧公園駐車場集合
松山～稲島～赤塚～角田浜方面
～11:30 ごろ現地解散予定(詳細当日決定)



※雨天・降雪時も実施予定(2日間ボランティア保険加入)
・・・状況に応じて防寒着・長靴等ご用意ください

★参加申し込み 2019年12月28日(土)まで (別紙申込み書にご記入の上、お申し込み下さい)